

そのまま使えるシミュレーション付

クラウドストレージ 購入の稟議書



クラウド移行を検討しているが、稟議・予算申請に課題を感じている情シス担当者の皆様へ。
本資料では、導入効果を明確に示せるシミュレーションと、そのまま使える稟議書テンプレートをご提供します。経営層への説得力ある提案資料として、ぜひご活用ください。

CONTENTS

はじめに	P2
なぜ今クラウドストレージの見直しが必要なのか？	P3
稟議書とは？クラウドストレージ導入稟議のポイント	P4
稟議書の書き方ガイド(テンプレート連動)	P5
クラウドストレージを選定する際に、比較すべき要素は何か？	P6
他社クラウドストレージとの徹底比較	P7
「Wasabi」が選ばれる理由	P8
シミュレーション：Wasabi導入時のコスト試算	P9
そのまま使える稟議書テンプレート	P10
導入事例：稟議通過のポイント	P11
無料トライアル・お問い合わせ	P12

なぜ今クラウドストレージの見直しが必要なのか？

企業を取り巻くリスク環境は大きく変化しており、従来のオンプレミス中心のストレージ戦略では対応しきれない課題が顕在化しています。情報システム部門には、事業継続性の確保とコスト最適化の両立が強く求められています。

1 BCP・DR対策の重要性



大規模災害や障害発生時でも、重要データを確実に保護し事業を継続できる体制の構築が不可欠です。

地理的に分散した複数拠点でのデータ保管が求められています。

2 ランサムウェア対策



サイバー攻撃の高度化により、従来のオンサイトバックアップだけでは復旧が困難なケースが増えています。

クラウドストレージでは、世代管理されたバックアップやイミュータブル（改ざん不可）な保存が可能であり、攻撃後の迅速な復旧と事業継続を支える仕組みとして再注目されています。

3 オンプレ環境の課題



- ・保守更新コストの増大
 - ・容量拡張の柔軟性不足
 - ・自然災害リスクへの対応など、
- 従来型インフラの限界が明確になっています。

クラウドストレージの導入は、単なる技術選定ではなく、事業継続性・セキュリティ・コスト最適化という経営課題への対応策です。稟議書では、これらの課題に対する具体的な解決策としてクラウドストレージを位置づけることで、説得力のある提案が可能になります。

稟議書とは?クラウドストレージ導入稟議のポイント

稟議書は、経営層や承認者に対して投資判断の根拠を示す重要な文書です。クラウドストレージ導入においては、技術的優位性だけでなく、事業継続性とコスト効果を明確に示すことが求められます。

1 稟議書の役割と構成要素

導入の**目的**、現状の**課題・背景**、具体的な**導入効果**、必要な**予算**、実現可能な**スケジュール**の5つの要素で構成します。各項目を論理的に整理することで、承認者の理解を深めます。

2 情報システム部門が押さえるべき視点

BCP対策による事業リスクの低減、**TCO削減**による中長期的なコスト最適化、**セキュリティ強化**によるコンプライアンス対応の3つの軸から訴求します。

3 稟議が通りやすくなる表現の工夫

定量的な**ROI**(投資対効果)の明示、「やらないリスク」としての**リスク回避**効果、運用工数削減による**業務効率化**を具体的な数値で示すことで、承認率が飛躍的に向上します。



重要ポイント

稟議書では技術詳細よりも、経営視点での「なぜ今必要か」「どれだけの効果があるか」を優先的に記載することが成功の鍵です。



稟議書の書き方ガイド(テンプレート連動)

効果的な稟議書を作成するには、各セクションで何を伝えるべきかを明確にすることが重要です。以下に、実務ですぐに使える記載例とポイントをご紹介します。



導入目的の書き方例

現状の課題を明確に

- NASの老朽化による保守コスト増加
- 容量逼迫による拡張投資の必要性
- 単一拠点保管によるBCP対策の脆弱性
- ランサムウェア対策の強化要請

解決策としてのクラウド

これらの課題に対し、コスト効率と災害耐性に優れたクラウドストレージの導入により、中長期的な総保有コストの削減と事業継続性の大幅な向上を実現します。



製品概要の書き方

製品の特徴を簡潔に (製品例: Wasabi)

- 主要クラウドの1/5のストレージ単価
- API呼び出し・データ転送料が完全無料
- S3完全互換でツール連携が容易
- イレブンナイン(99.999999999%)の耐久性



導入効果の書き方

定量的効果

5年間のTCOで約1,300万円削減、年間約260万円のコスト改善を実現します。

定性的効果

運用工数80%削減、容量拡張の柔軟性確保、地理的冗長性による災害対策強化を達成します。



予算とスケジュールの記載例

初年度予算

初期費用50万円、年間ランニングコスト80万円(50TB想定)、予備費5万円、合計135万円

スケジュール

稟議承認後1ヶ月でアカウント開設、2ヶ月で試験移行、3ヶ月目から本番稼働を想定します。

クラウドストレージを選定する際に、比較すべき要素は何か？

クラウドストレージ導入の稟議を通すには、「他の選択肢と比較した上で、なぜこの製品を選んだのか」を明確に説明する必要があります。以下は、クラウドストレージ選定時に検討すべき主要な比較ポイントです。



①コスト構造の透明性

月額料金だけでなく、転送費・API呼び出しなどの“隠れコスト”も含めて予測可能か？



②運用性・ユーザー体験

情報システム部門だけでなく、現場ユーザーが使いやすいUIか？
社内運用に特別な技術知識が必要か？



③既存環境との互換性

既存のバックアップツールや業務システムとスムーズに連携できるか？



④災害対策・BCP対応

地理的冗長性やイミュータブル保存など、事業継続性を支える仕組みがあるか？



⑤拡張性・柔軟性

容量の増減が容易か？
プロジェクト単位で柔軟に運用できるか？

これらの視点をもとに製品を選定し、稟議書では「どの観点で優位性があるか」を簡潔に整理することで、
経営層の納得感を高めることができます。

他社クラウドストレージとの徹底比較

稟議書の説得力を高めるためには、他製品との比較資料を添付することが有効です。



比較の観点として重要な要素

コスト構造（ストレージ単価・転送費用）

運用性（UIや操作性）

災害対策（冗長性やBCP対応）

互換性（S3 API対応やバックアップツール連携）

拡張性（容量増減の柔軟性）



主要サービスとの機能・コスト比較

比較項目	Wasabi	製品A	製品B	製品C	製品D
主な用途	バックアップ長期保存	ファイル共有コラボ	ファイル共有コラボ	ファイルサーバー	情報共有ポータル
TB単価(月額)	¥700～	¥1,800～	¥2,000～	¥1,500～	¥900～
転送費用	無料	含む	含む	従量課金	含む
API料金	無料	従量課金	-	従量課金	-
S3互換性	完全対応	非対応	非対応	部分対応	非対応
バックアップツール連携	◎	△	△	○	△

「Wasabi」が選ばれる理由



コスト最適化とシンプルな料金体系

Wasabiは、従来のクラウドストレージの課題を解決する新世代のオブジェクトストレージサービスです。予測可能なコスト構造により、予算申請時の説明が容易になります。

80%

コスト削減率

主要クラウドと
比較した削減幅

¥0

転送費用

ダウンロード・API
呼び出し無料

100%

S3互換性

既存ツールが
そのまま利用可能

圧倒的なストレージ単価

主要クラウドサービスと比較して最大80%のコスト削減を実現。TB単価が明確で、長期保存に最適な料金設定です。大容量データを扱う企業ほど、その差額は顕著になります。



強固なセキュリティ

AmazonS3Standardと同じ99.99999999%のオブジェクト耐久性。オブジェクトロック機能で簡単にランサムウェア対策を実現



ハイパフォーマンス

Wasabi独自のテクノロジーで拘束ファイルシステムを実現



高い互換性と柔軟性

S3 API完全互換により既存のバックアップツール(Veeam、Commvault等)やアプリケーションとシームレスに連携。SMBプロトコルにも対応し、ファイルサーバーとしても利用可能です。Active Directory統合、マルチリージョン対応など、エンタープライズ要件も満たします。



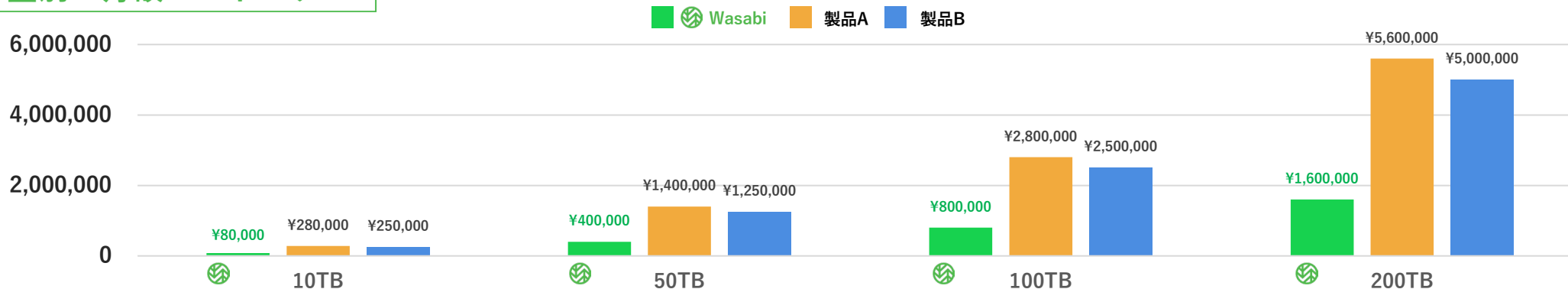
情シス担当者の視点

稟議書作成時、「コスト削減額」「運用工数削減」「災害対策強化」の3点を定量的に示すことで承認率が大幅に向上します。Wasabiはこれらすべてで明確なメリットを提示できます。

シミュレーション：Wasabi導入時のコスト試算

実際の導入を想定した具体的なコストシミュレーションをご紹介します。貴社の状況に応じて数値を調整し、そのまま稟議書に添付できる試算例です。定量的な根拠を示すことで、経営層の意思決定を強力にサポートします。

容量別の月額コストモデル



モデルケース

中堅企業のバックアップ基盤刷新

導入前(オンプレミス)

5年間総コスト **¥15,800,000**

初期投資	ストレージ機器 ¥8,000,000
保守費用	年間 ¥1,200,000(5年間)
電気代	年間 ¥360,000
運用工数	月10時間(年間120時間)
容量	50TB(拡張困難)



導入後(Wasabi 50TB)

5年間総コスト **¥4,500,000**

初期投資	移行作業 ¥500,000
保守費用	¥800,000 × 5年
電気代	なし
運用工数	月2時間(年間24時間)
容量	必要に応じて即座に拡張可能

削減効果

5年間で約**1,130万円(71%)のコスト削減を実現**。さらに運用工数は80%削減され、情シス部門のリソースを戦略的業務に振り向けることが可能になります。

そのまま使える稟議書テンプレート

実際の稟議書作成で悩まれる方のために、**すぐに使える構成とサンプル文面**をご用意しました。貴社の状況に合わせて数値や固有名詞を変更するだけで、説得力のある稟議書が完成します。以下の各セクションは、稟議承認に必要な要素を網羅しています。

01 導入目的・背景

現状の課題(BCP対策不足、オンプレ保守コスト増、ランサムウェアリスク)と、クラウド移行による解決策を明確に記述します。

02 製品概要

「製品の特徴(Wasabiの場合：コスト優位性、API無料、S3互換性、セキュリティ機能)」を経営層が理解しやすい言葉で簡潔に説明します。

03 導入効果

定量的メリット(5年間のTCO比較、年間削減額)と定性的メリット(運用負荷軽減、拡張性向上、災害対策強化)を具体的数値とともに明記します。

04 導入スケジュール

稟議承認後のマイルストーン(契約～移行～本番稼働)を具体的な月次で提示し、実現可能性を示します。

05 予算申請額と内訳

初期費用(移行作業費)、月額費用(容量×単価)、予備費を明細化し、透明性の高い予算根拠を提示します。

記載例 導入目的・背景セクション

現状の課題

1. BCP・DR対策の不足

本社データセンターのみでの管理のため、大規模災害時のデータ消失リスクが高い状況です。

2. ランサムウェア対策の脆弱性

オンサイトバックアップのみでは、攻撃を受けた際の復旧手段が限定的であり、事業継続に重大な影響を及ぼす可能性があります。

3. 保守コストの増大

機器のEOL(販売終了)に伴う更新費用が5年ごとに約800万円発生し、予算を圧迫しています。

4. 容量拡張の硬直性

データ量の増加に伴い、容量の拡張が難しく、追加投資のタイミングや規模の予測が困難です。

解決策としてのクラウドストレージ

これらの課題を解決するため、コスト効率と災害耐性に優れたクラウドストレージ「Wasabi」の導入を提案いたします。初期投資を抑えながら、地理的冗長性の確保と運用負荷の大幅削減を実現します。

予算申請額の記載例

項目	金額
初期費用(移行作業)	¥500,000
月額費用(50TB × 12ヶ月)	¥800,000
予備費(容量増加対応)	¥80,000
初年度合計	¥1,380,000

スケジュール記載例

- 1ヶ月目：契約締結、アカウント開設
- 2ヶ月目：検証環境構築、試験移行
- 3ヶ月目：本番データ移行開始
- 4ヶ月目：本番稼働、運用監視開始
- 5ヶ月目：旧環境の並行運用終了

稟議通過のポイント

クラウドストレージ導入を検討する企業の典型的なユースケースと、稟議承認を得るために有効なアプローチ例をご紹介します。

製造業

(CAD図面の長期保存)



課題 CAD図面データの長期保存コストが年間300万円超

効果 年間200万円削減、10年保存も容易に

稟議のポイント

競合3社の相見積もりとTCO比較表を添付し、
定量的な削減額を明示。

医療法人

(画像データのBCP対応)



課題 医療画像データの災害対策が不十分、法令遵守リスク

効果 地理的冗長性確保、監査対応が容易化

稟議のポイント

法令要件への対応を最優先事項として記載、
コンプライアンス観点で承認獲得。

映像制作

(大容量データの柔軟運用)



課題 4K/8K映像データで急速に容量逼迫、拡張費用が課題

効果 従量課金で柔軟に容量調整、プロジェクト終了後は
アーカイブ

稟議のポイント

無料トライアルで実データ検証を実施、
実績ベースで提案。

稟議通過のための 共通成功要因

定量的根拠

5年間のTCO比較、年間削減額、ROI期間を明確に算出し、
経営層が判断しやすい**具体的数値**を提示。感覚的な説明ではなく、
データに基づく論理的な提案がポイント。

リスク対策の明示

BCP、DR、ランサムウェア対策といったリスク低減効果を
具体的に記載し、「やらないリスク」を訴求。
現状維持のリスクを明確にすることで、投資の必要性を強調。

段階的導入計画

全面移行ではなくスモールスタート(小規模データから試験導入)を
提案し、初期投資と移行リスクを抑制。成功体験を
積み重ねることで、全社展開への道筋をつけやすい。

導入後の運用改善例

バックアップ時間の短縮

オンプレ環境では8時間かかっていた処理が、高速転送により**3時間に短縮**

容量管理の自動化

従来は手動で容量監視していたが、APIを活用した自動アラート設定で**工数90%削減**

拠点間データ共有の円滑化

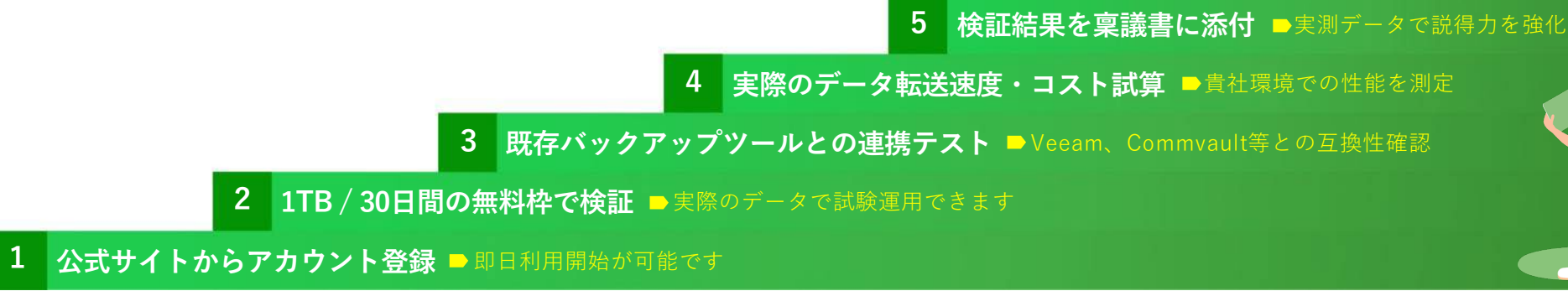
全国3拠点からのアクセスが可能になり、**ファイル転送の手間が解消**

災害訓練での検証

年1回の災害復旧訓練で、Wasabiからのリストアを実施し、**RTO(目標復旧時間)を大幅に改善**

無料トライアル・お問い合わせ

稟議書作成の前に、まずは**無料トライアル**で実際のコストとパフォーマンスをご確認ください。貴社環境での検証結果があれば、稟議の説得力が大幅に向上します。



よくあるご質問

Q. 最小利用期間はありますか？

A. 1年契約となります。月額請求が可能です。

Q. 既存のバックアップソフトは使えますか？

A. はい、S3互換APIを持つため、Veeam、Commvault、Acronisなど主要製品と連携可能です。

Q. セキュリティ認証は取得していますか？

A. SOC 2 Type II、ISO 27001、PCI DSS等の主要な認証を取得済みです。

Q. 日本国内にデータセンターはありますか？

A. はい、東京と大阪にリージョンがあり、データは日本国内に保管されます。

まずは無料トライアルで検証を開始し、並行して本資料のシミュレーション数値を貴社環境に合わせて調整してください。
実データに基づく稟議書は、承認率を大きく高めます。ご不明点があれば、いつでも当社担当営業までお問い合わせください。

お問い合わせはこちら



ご連絡先

パナソニック デジタル株式会社

大阪本社 ☎06-6906-2801 📍〒530-0053大阪市北区末広町2番40号 Panasonic XC OSAKA
東京本社 ☎03-5148-5634 📍〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号